

# 日商エレクトロニクス標準BPアセット 概要説明書

日商エレクトロニクス株式会社

最終更新：v1.0.6 (2020/8/20)

# 目次

- はじめに
- 用語の定義
- アセット内容
- フルパッケージ構成詳細
- NEO/NEEXの利用方法
- NETの利用方法① メール送信オブジェクトテンプレート
- NETの利用方法② 画面操作オブジェクトテンプレート
- NETの利用方法③ プロセステンプレート
- (補足) 本アセットの準拠する開発ルール
- (補足) プロセス・オブジェクトの著作権表示について

# はじめに

- 本資料はBlue Prism Digital Exchangeにて日商エレクトロニクス株式会社（以下、日商エレ）が公開する「日商エレクトロニクス標準BPアセット」（以下、本アセット）の概要を説明するものです。
- 本アセットに含まれるBlue Prism用の成果物（プロセス・オブジェクト等）は[MITライセンス](#)に基づいて提供されており、適切な著作権表示を行う限り、商用・非商用を問わず無償で利用・改変・再配布が可能です。ただし、日商エレは本アセットに起因または関連して生じる一切の請求・損害・その他の義務について何らの責任も負わないものとします。
- 本資料を含む、本アセットに関する説明資料や、それらに含まれるスクリーンショットは[Creative Commons Attribution-ShareAlike 3.0 \(CC BY-SA 3.0\)](#) ライセンスにて提供されます。

# 用語の定義

本資料や本アセット内のコメントでは、以下の言葉を以下の意味で使用します。

- **プロジェクト**

- > Blue PrismによるRPA化を促進する、各会社のRPA組織を指します。  
開発や運用ルールが共有されている単位と考えてください。

- **リード開発者**

- > プロジェクトの開発ルールやBPの仕様に精通し、他の開発者の模範となる開発者を指します。  
開発者が1名のみプロジェクトでは、その開発者と捉えて構いません。

- **アセット**

- > Blue Prismでの利用を想定したプロセスやオブジェクト、スクリプト、ソフトウェアなどの総称です。  
(本アセットには現時点ではプロセス・オブジェクトのみが含まれます)

# アセット内容

本アセットには以下の3種類が含まれます。内容は随時追加されるため、プロセス・オブジェクトの完全な一覧はアセットに同梱された最新バージョンの内容リストをご確認ください。

- **Blue Prism製作済オブジェクト**

Blue Prismにインポートすればそのまま利用できるオブジェクト群です。

- **Blue Prismオブジェクトテンプレート**

オブジェクト製作時に元にするためのテンプレートです。

現在用途により2種類が用意されています。

- **Blue Prismプロセステンプレート**

プロセス製作時に元にするためのテンプレートです。

全プロセスがこれに従う前提で、1種類のみ存在します。

# アセット内容(続き)

本アセットをダウンロード後、zipファイルを展開すると、以下のフォルダ・ファイルが含まれています。

- ・日商エレクトロニクス標準BPアセット\_(バージョン番号)\_フルパッケージ.bprelease
- ・日商エレクトロニクス標準BPアセット\_(バージョン番号)\_汎用オブジェクトパッケージ.bprelease
- ・日商エレクトロニクス標準BPアセット\_リリースノート\_(バージョン番号).pdf
- ・日商エレクトロニクス標準BPアセット\_内容リスト\_(バージョン番号).pdf
- ・日商エレクトロニクス標準BPアセット\_プロセステンプレート設定ファイルサンプル.xlsx
- ・[追加・修正ファイル]フォルダ ※個別更新が非推奨の更新など、同梱しない場合あり
  - > (プロセス or オブジェクト名).xml

「フルパッケージ」には、テンプレートを含む本アセットの全プロセス・オブジェクトが含まれています。またサンプルの動作に必要な環境変数も含まれます。「汎用オブジェクトパッケージ」は製作済オブジェクトのみをまとめたパッケージです。テンプレートが不要で、オブジェクトのみ利用したい方はこちらをインポートしてください。

[追加・修正ファイル]フォルダには1つ前のバージョンから更新があったファイルのみをインポートしたい方向けの個別xmlファイルが格納されています。更新の詳細はリリースノートを参照してください。

# フルパッケージ構成詳細

## ●プロセス

### ● NE標準テンプレート

#### ★ NET - プロセステンプレート

## ●オブジェクト

### ● NE標準オブジェクト

#### ★ NEEX - (オブジェクト名)

#### ★ NEO - (オブジェクト名)

### ● NE標準テンプレート

#### ★ NET - メール送信オブジェクトテンプレート

#### ★ NET - 画面操作オブジェクトテンプレート

## ●環境変数

#### ★ NET\_(環境変数名)

- : フォルダ
- ★ : プロセス等

フルパッケージには左のようなフォルダ構成/命名規則でプロセス・オブジェクト・環境変数が含まれます。

**NET**に分類されたものは、テンプレートのためそのまま利用できず、利用者にて何らかの修正を行う前提となっています。

**NEEX**に分類されたオブジェクトは、Blue Prism公式インストーラーに付属したオブジェクトについて、日商エレが独自の拡張を行ったものです。元オブジェクトの機能を全て含んだ上位互換ですので、1つのプロセス内で公式のオブジェクトと併用するのはお止めください。（併用する場合、両者の実装を理解していないとエラーの原因になります）

**NEO**に分類されたオブジェクトは、日商エレが独自に製作したものです。公式のオブジェクトと関連した機能を持つものがありますが、併用を前提としていますので必要に応じて公式オブジェクトと使い分けてください。

※NEは「Nissho Electronics」の略、NETは「NE Template」、NEEXは「NE Extended」、NEOは「NE Original」の略です。

# NEO/NEEXの利用方法

本アセットの内容は随時アップデートされますが、インポートしたプロセスやオブジェクトを直接編集してしまうと、最新バージョンのインポート時にご自身の編集内容が上書きされてしまいます。

以下のような使い方をすることをお勧めします。

- NEO

編集せず、そのまま呼び出して使用する。

もし機能が不足している場合、その機能だけを持った別オブジェクトを自作し、併用する。

- NEEX

基本的には、編集せずそのまま呼び出して使用する。

機能が不足している場合、「名前を付けて保存」により対象オブジェクトのコピーを別名で作成し、編集する。

その機能が必要なプロセスでは、編集したコピー版オブジェクトのみを利用する。

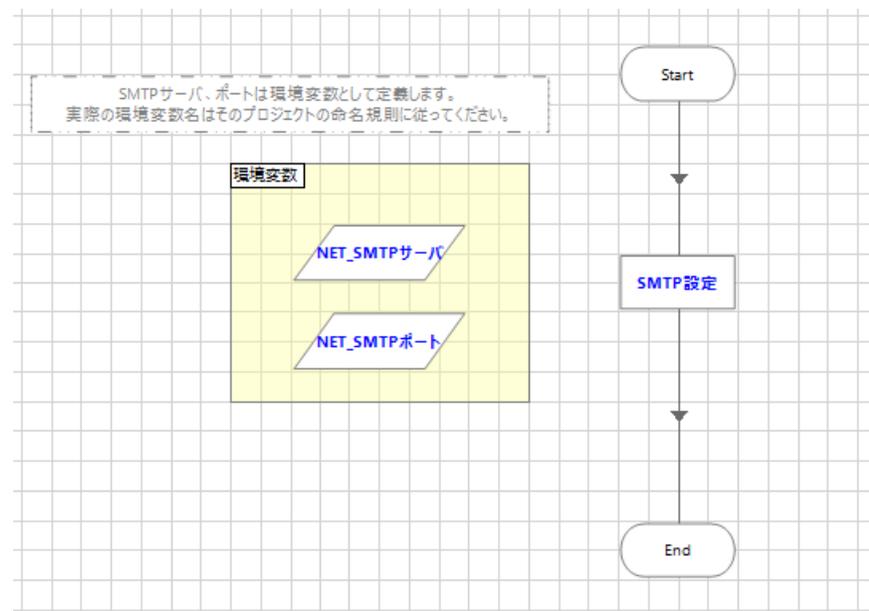
(このカテゴリの類似オブジェクトを同プロセスから複数呼び出すことは推奨しません)

なお、アップデートは原則として後方互換性（旧バージョンで動作していた呼び出し方法が、新バージョンにアップデートした際に不可能にならないこと）を保つ予定です。

# NETの利用方法① メール送信オブジェクトテンプレート

「NET - メール送信オブジェクトテンプレート」は、メール送信に関するそのプロジェクト内の共通処理（SMTPサーバーの設定など）やルール（社外アドレスには送信禁止、送信時に自動で運用担当にも送る、など）を実装したオブジェクトを簡単に作成できるテンプレートです。このようなオブジェクトを1つ作成し、各プロセスでメールを送る際にはこれを使うようにルール化することで、メール送信処理の実装が楽になる上、将来的なルール変更も容易になります。

このテンプレートは、これを用いて1つだけそのプロジェクト用のオブジェクトを作成してしまえば、以降個々の開発者が使用する必要はなくなります。ただしNEEX同様アップデートの問題を避けるため、直接編集ではなく別名で保存後にご利用ください。



例えば、SMTPサーバの設定は通常どのプロセスでも共通で行うため、左のようなサンプルが用意されています。

「NET\_SMTPサーバ」や「NET\_SMTPポート」はパッケージに付随するサンプル環境変数ですので、そのプロジェクトの命名規則に合わせて環境変数を作成し、そちらを参照するように変更するのをお勧めします。

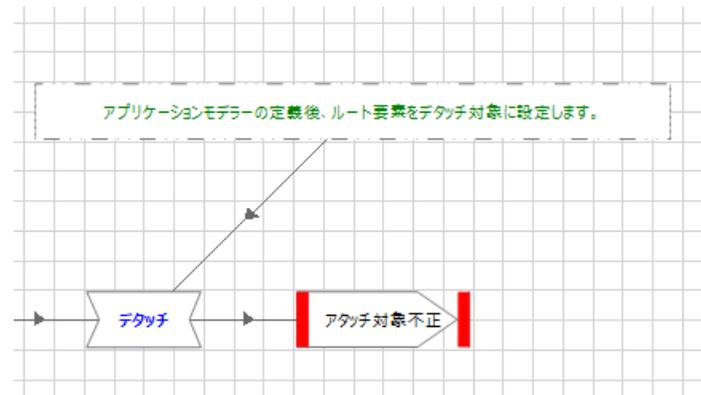
このような説明はオブジェクト内の説明欄やコメントにも記載してありますので、参考にしてください。

▲ 「メール送信オブジェクトテンプレート」 - 「初期化」 ページ

## NETの利用方法② 画面操作オブジェクトテンプレート

「NET - 画面操作オブジェクトテンプレート」は、システムの画面を操作するオブジェクトを作成するとき、日商エレが必ず用いているテンプレートです。テンプレートを利用すると成果物の品質が均一化し、同プロジェクトの別の開発者が見ても理解しやすいため、保守性も高まります。またこのテンプレートには画面操作時にエラー原因となりやすいアタッチなどに関する共通処理を予め実装してあるため、開発者は画面要素スパイや操作ステージの設定に集中することが出来ます。

このテンプレートは「メール送信オブジェクトテンプレート」と異なり、新規の画面オブジェクトを開発をする度に使用するものです。一方、特に環境依存要素はありませんのでプロジェクト向けのカスタマイズをしなくても、そのまま各開発者が利用することが可能です。もし何かの事情で編集をしたい場合はNEEX同様、別名保存後に編集を推奨します。



▲ 「画面操作オブジェクトテンプレート」の一部

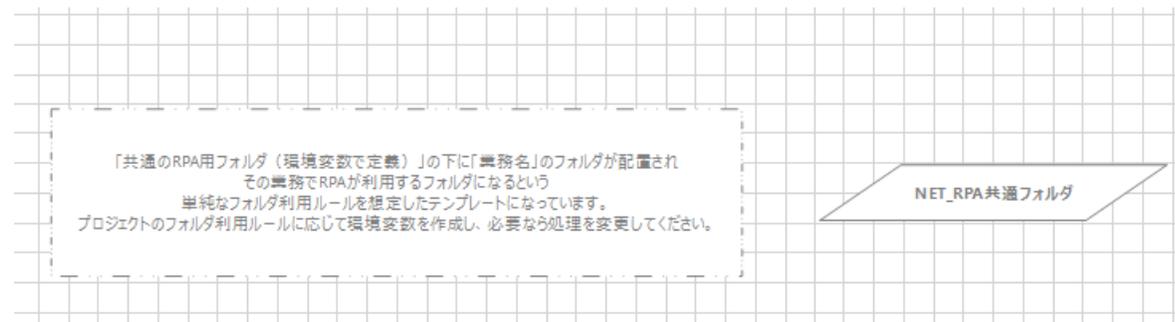
画面操作オブジェクトテンプレートには、青字のステージやデータアイテムがいくつか存在します。これらはステージ自体は用意してあるものの、中身の設定は実際のオブジェクト作成時に開発者が行う必要のある部分ですので、周囲のコメントを参考に設定を忘れないようにしてください。

# NETの利用方法③ プロセステンプレート

「NET - プロセステンプレート」は日商エレが社内でBlue Prismのプロセス製作を行う際に、どんなプロセスでも必ずこれに従って作成するように定められたテンプレートです。ただし、本アセットに含まれるバージョンは利用者の環境・開発ルールに合わせたカスタマイズが行いやすいよう、極力環境依存を排除し、汎用化したものになっています。

逆に言えば、本テンプレートはある程度環境に合わせたカスタマイズを行った上で利用する必要があります。NEEX同様、こちらの編集も直接行うことは推奨しませんので、実際の利用の流れは以下のようになります。

- ① 「NET - プロセステンプレート」を別名で保存  
(名前例：「000\_テンプレート」 — そのプロジェクトにおけるプロセス命名規約と一致させるとよい)
- ② 「000\_テンプレート」を、そのプロジェクトのリード開発者が環境に合わせてカスタマイズ
- ③ 「000\_テンプレート」を更に別名で保存して、各開発者が実際の業務プロセスを開発



カスタマイズが容易になるよう、プロセステンプレートにはこの種のカスタマイズが必要な部分に灰色のコメントを付与しています。その他コメントの色による意味合いなどはプロセスの説明欄（メインページの説明ステージ）に細かく記載がありますので、そちらを参照してください。

▲ 「初期化」ページ、利用フォルダの設定部分のコメント

# NETの利用方法③ プロセステンプレート(続き)

「NET - プロセステンプレート」は、「初期化」ページでExcel形式の設定ファイルを読み込むように作られています。  
 プロセスで利用する定数データの多くは作成後に変更したくなる可能性があるため、プロセスには直接値を書き込まないようにすると便利です。  
 (※システムのURLなど特定の業務に紐づかず、複数プロセス・オブジェクトで利用される値には設定ファイルではなく「環境変数」を使います)

設定ファイルの形式は各プロジェクト内で使いやすい形に決めていただくとよいですが、  
 参考に本アセットのテンプレートでそのまま利用できる設定ファイルサンプルを同梱しています。  
 (日商エレクトロニクス標準BPアセット\_プロセステンプレート設定ファイルサンプル.xlsx)

サンプル設定ファイルは一般的な設定値を格納する「業務設定」とメールに関する設定値を整理して格納できる「メール設定」に分かれています。  
 これらはテンプレートをそのまま使用した場合、以下のような記法で値を取り出せるコレクションとして読み込まれます。

業務設定：[業務設定.(項目名)]      ex. [業務設定.実行モード]  
 メール設定：[メール設定.(種類).(項目名)]      ex. [メール設定.結果メール.To]

	A	B	
	項目名	値	説明
1	実行モード	通常	プロセス内で予め定義した実行モードを文
2	カレンダー	日商エレクトロニクス営業日	プロセス内で利用するカレンダー名 (BP)
3	XXシステム_検索ワード	ABCD	XXシステムで検索を行う際に入力する文

	A	B	C
1	種類	結果メール	エラーメール
2	To	sample@nissho-ele.co.jp	error@nissho-ele.co.jp
3	CC		sample@nissho-ele.co.jp
4	BCC		
5	件名	XXX業務_結果報告 ご担当者様  %実行日%のXXX業務が完了しました。  成功件数：%成功件数% エラー件数：%エラー件数%	【重要】XXX業務_エラー通知 ご担当者様  XXX業務でエラーが発生しました。至急対応をお願いします。  発生日：%実行日% エラーとなった管理番号：%管理番号%
6	本文	各エラーなどの詳細は添付ファイルをご覧ください。	
7			

# (補足) 本アセットの準拠する開発ルール

本アセット（特にNEO）はどんなプロジェクトでも活用可能なように作成されていますが、特に環境依存にならない一般的な事項については、日商エルの開発ルールに準拠しています。その中でいくつか、日商エレが広くアセット利用者にも推奨する開発ルールについて補足します。

①BPのフローは上から下に、直線的に作成しましょう。

くねくねとしたフローは作成者にとっては場所を節約できて見やすいかもしれませんが、他人を混乱させます。

②BP公式のガイドにもありますが、BPのオブジェクトは対象アプリの1画面につき1つ、分割して作成しましょう。

ここでいう1画面とは物理的な1ウィンドウだけでなく、ある程度まとまった画面要素群で分割するとよいです。

例えば、左のサイドバーで右の画面を切り替えるようなアプリでは、サイドバーオブジェクトと各画面オブジェクトを分割しましょう。

③グローバル変数は1ページにまとめて配置しましょう。（本アセットではプロセス/オブジェクトともに「初期化」に統一）

作成者以外が閲覧したときグローバル変数であることが分かりやすくなり、保守性が向上します。

また変数選択ペインで、「ページ」ごとにグルーピングすると他のページから簡単にグローバル変数を選択できます。

④プロセス製作時、ワークキューは必ず使用しましょう。単純な業務ではあまりメリットが得られない場合もありますが、

使用するデメリットがあるわけでも、使用しないことで何かメリットがあるわけでもありません。

一度テンプレートさえ用意してしまえば、むしろキューを使わない独自の作り方をすることが高コストです。

# (補足) プロセス・オブジェクトの著作権表示について

本アセットはMITライセンスに従い、著作権表示を適切に行う限り、利用・改変・再配布は自由となっています。ただし、プロセス・オブジェクトの著作権表示方法について一般に定まった方法は無いと思われるため、本アセットにおけるライセンス表記の考え方について補足します。

本アセットに含まれるプロセス・オブジェクトには、最初のページに以下のようなライセンス表記を付与しています。



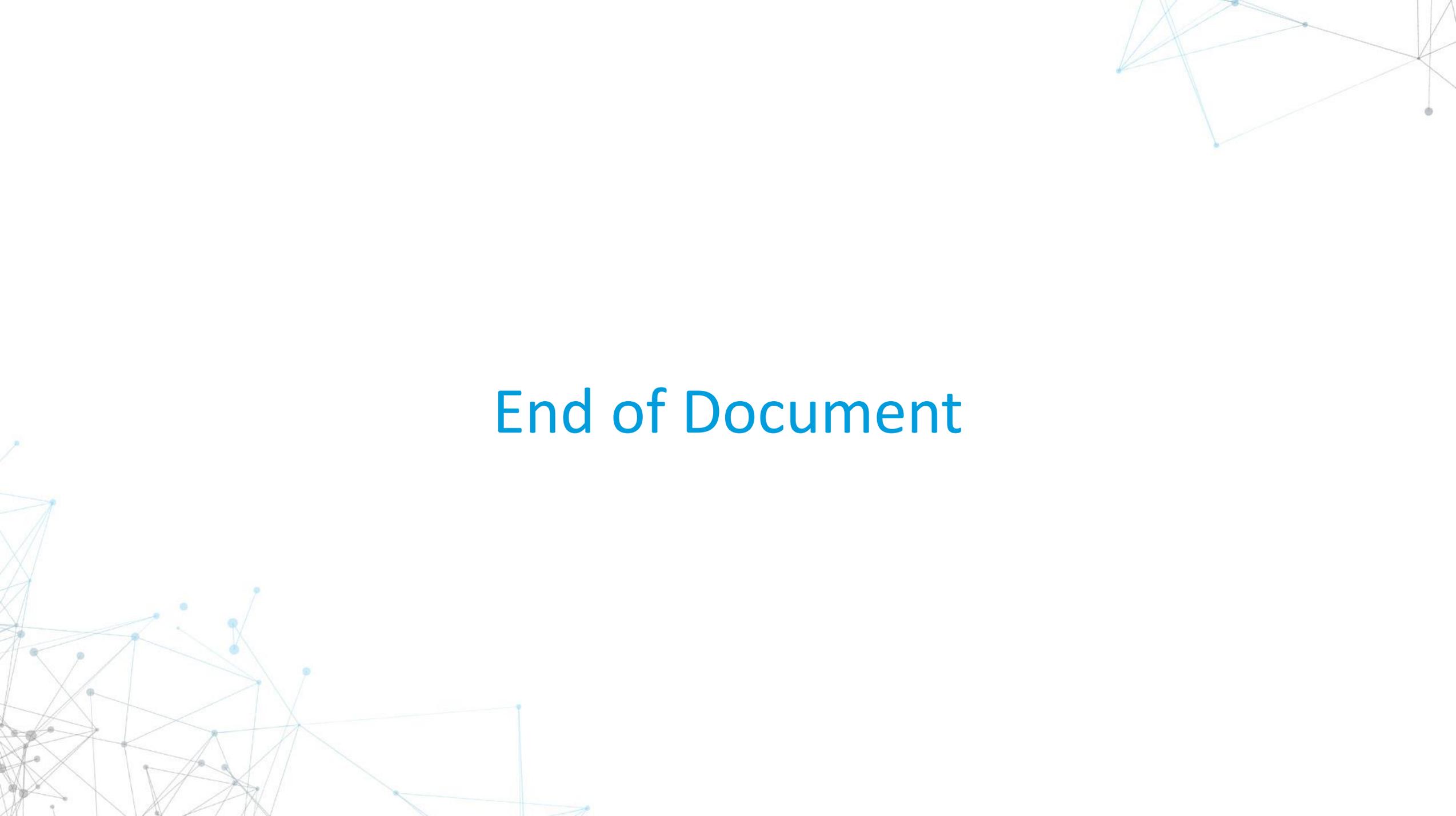
利用・改変・再配布時にこの表記を改変・削除しないでください。

また注記ステージを移動することは可能ですが、最初のページの説明欄付近には配置してください。

改変・再配布時には上記の方法を模倣し、自身の著作権について別途注記ステージを設けることを推奨します。

なおMITライセンスでは元の著作権表示を行う限り、改変・再配布時に別のライセンスを適用することは問題ありません。

従ってこのアセットを用いてプロセス・オブジェクト開発を行ったからといって、その成果物にMITライセンスを適用する必要はありません。

The image features a white background with decorative network graph elements in the corners. These elements consist of small blue and grey dots connected by thin, light blue lines, forming a complex web of connections. The text "End of Document" is centered in a bold, blue, sans-serif font.

**End of Document**